

令和6年度（2024年度）第4回東海市協働推進体制づくり検討委員会 次第

日 時 令和7年（2025年）3月12日（水）
午後2時

場 所 東海市役所501会議室（5階）

1 開会

2 報告

- (1) 第3回とうかいKyō-Dō（協働）キックオフミーティングについて【別紙1】
- (2) 協働推進体制づくり職員研修について【別紙2】
- (3) 市内小中学校と市民活動団体の協働・連携マッチング会について【別紙3】

3 意見交換

- (1) 市民活動センターの機能充実について【別紙4-1～4-3】
- (2) 市民活動団体の状況に応じた各種支援の充実について【別紙5】
- (3) 団体間のマッチング・コーディネート機能の充実について【別紙6】

4 その他

- (1) 令和7年度（2025年度）第1回東海市協働推進体制づくり検討委員会の開催予定

令和7年（2025年）5月 日（ ） 時から 時まで
会議室（ 階）

5 閉会

とうかい Kyo-Do 協働 通信 No.3

「企業」×「NPO・市民活動団体等」の協働を考える！

第3回とうかいKyo-Do(協働)キックオフミーティングを2025年1月17日(金)に開催し、NPO・市民活動団体、企業、高校・大学等の関係者の計29人に参加していただきました。



今回は「企業」と「NPO・市民活動団体等」との協働について話し合いました。これまでの協働経験や、これから取組を進める上で、お互いに大切にしたいこと等について、意見を交わしました。

立場や属性を越えて、協働を進めるために積極的に話し合った！

前半では、「企業」と「NPO・市民活動団体等」ごとにグループをつくり、協働経験がある人は、そのきっかけや意義等を、経験がない人は、その理由等について話し合いました。

後半では、属性ごとに分けて、「企業」と「NPO・市民活動団体等」が協働を進める上で、「お互いが大切にしたいこと」、「協働の具体的なアイデア」について意見交換を行いました。第2回(小中学校・高校・大学の関係者×NPO・市民活動団体等)のミーティングの意見との共通点も多くありました。以下、主な意見をご紹介します。

キーワード	内容（協働を進める上での課題）
時間・費用	・時間、場所の打ち合わせ。合わせるのが大変だった。 ・無償ボランティアはずっと継続できるか不安。自分も時間は有償。 ・予算立てまでの時間が短く、協働に至るまでの検討時間が足りない。
相互理解	・社内メンバーの理解を得ることが難しい。 ・目的が共有できていないと、活動が形だけになってしまう。 ・企業や団体間の情報共有の仕組みが確立されていない。
人材・経験	・役割分担が明確でなく、運営が属人化してしまう。 ・どのように声掛けをすればよいのかわからない。

千頭先生からは、今回のような場を、企業やNPO・市民活動団体等が中心となり創り出していくことも意義があることという問いかけが参加者に向けて投げかけられました。

ミーティング終了後には、顔見知りとなった参加者同士が、積極的に話し合いの続きをしたり、お互いの活動情報を交換したりする場面が多く生まれました。

本取組に関するご質問等は下記までお問い合わせ下さい

連絡先：東海市市民協働課

電話：052-613-7525

0562-38-6136

Email：chiiki@city.tokai.lg.jp

発行者：東海市総務部市民協働課



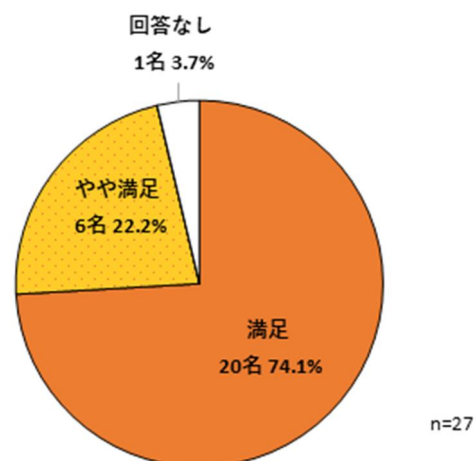
第3回のアンケート結果(抜粋)

1 全体の満足度

- 満足が 74.1%、やや満足が 22.2%、ほとんどの参加者が満足と回答しています。

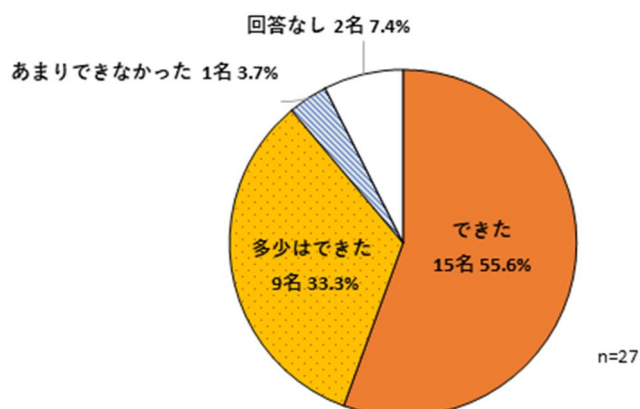
1-1 その理由

- 企業の方や、普段出会うことのない NPO 団体の皆さんと情報交換ができてよかった
- 協働する上での問題点やその解決策について考えることができた
- 同じ民間企業の中に、利益だけでなく、まちづくりに貢献したいという思いを持った方が多いことに気づいた。等



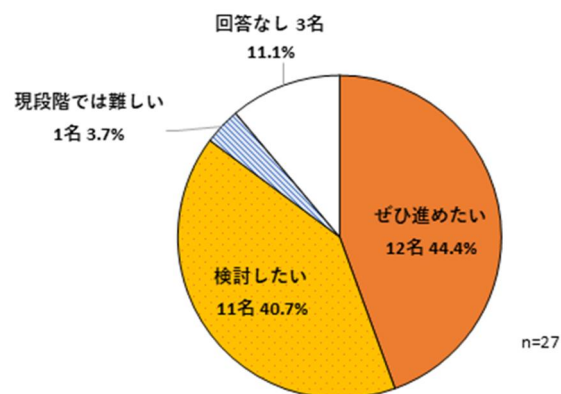
2 企業や市民活動団体等との相互の理解や交流を深めることはできたか。

- できたが 55.6%、多少はできたが 33.3%、あわせて 8 割以上の参加者ができたと回答しています。



3 今後、企業や市民活動団体等との協働を進めていきたいと思いますか

- ぜひ進めたいが 44.4%、検討したいが 40.7%、あわせて8割以上の参加者が進めたいと回答しています。



3-1 一緒に取り組んでみたいこと

- 産休前の方向けの講座を企業とやりたい
- 企業と NPO が協力し、部活動を支援したい 等

4 今後、企業や市民活動団体等と協働する上での悩みや困りごとなど

<つながる場について>

- 交流の場を設ける際、要検討事項(費用、拘束時間、何かあった時の責任問題等)を明らかにしてもらえると、つながりやすい
- 市からの助成や補助金など制度があり、その情報があるとより良いマッチングが可能 等

<きっかけや窓口がない>

- 担当窓口が違う(市民活動団体は市民協働課、企業は商工労政課)ため上手く出会えない
- 協賛のお願いをしに行く窓口を知りたい 等

協働推進体制づくり職員研修アンケート報告

■日時：2025年1月24日（金）14：00～16：00

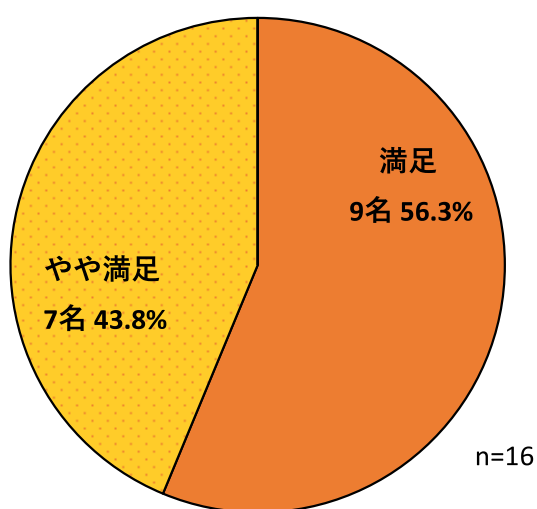
■会場：市役所 302会議室

■参加者：東海市役所職員20名

（次長級2名、課長8名、主幹・統括主任4名、主任3名、主事級3名）

〔参加者アンケート結果〕

Q1 本日の研修を受講して協働・マルチパートナーシップに関する理解は深まりましたか。



1. 満足：9名（7名からの意見）

<「協働」に対する捉え方>

- ◆ これまで自分が考えていた「協働」とは捉え方が全然違った。
- ◆ 「協働」に関して、特に大切なマインドを改めて知ることができた。
- ◆ 協働は目的ではなく手段であること。相手を知ること“ちがひ”を知ることが大切であると感じた。
- ◆ 職務上、協働等に関わることが今までなかったので初めて学ばせていただきました。知識・経験がない自分にもわかりやすかったです。
- ◆ 協働を知っていると思っていたが、新しい気づきがあった。とても良い機会でした。ありがとうございました。

<その他>

- ◆ 地域縁の大切さ＝地域力をあげていくことが大切
- ◆ 課長さんたちからアドバイスをいただけた。講義内容がためになる内容であった。

2. やや満足：7名（4名からの意見）

- ◆ 協働が身近なことにあふれていること、考え方について深まった。
- ◆ グループワークを通じていろいろな意見を聞いた。
- ◆ まだまだ奥が深い事項。
- ◆ おくれてしまってごめんなさい。

3. やや不満：0名

4. 不満：0名

5. 回答なし：0名

Q2 講演の中で、特に学んだことや印象に残ったこと等をお書きください。

（16名からの意見）

<協働は手段>

- ◆ 協働は手段。プロセスを楽しむ。持ち寄り、持ち帰り。
- ◆ 協働は手段であり、目的ではない。想いを引き継いでいくことは難しい（でも大切）。
- ◆ 協働は手段であって目的ではない。
- ◆ 協働は手段であって目的ではない。パートナーシップは対等。お客様ではない。
- ◆ 協働は「手段」であり「目的」ではない。対等に。コーディネーターの重要性（また難しさ）
- ◆ 協働は手段であるということ。

<“持ち寄り”と“持ち帰り”>

- ◆ 改めて「協働」。持ち帰りを大切に。
- ◆ 相手によって協働の仕方は変わる。地縁から地域縁。持ち寄りと持ち帰り。

<互いを理解する、想いを共有する、おしゃべりする>

- ◆ 団体等の強みを理解する。コーディネーターが重要。地域の資源を洗い出す。互いの違いを理解する。
- ◆ お互いを知ること、互いを理解したり、ちがいを知ることが協働のスタートであり、共有し合うことが大切だと感じた。おしゃべりが大事。
- ◆ 形だけでなく、想いを伝えていくことが大切であるということ。また、その共有方法については、しゃべることが良いこと。
- ◆ パートナーシップ＝違いを知ること。行政も主体の一つ。思いを共有する。集まって話すことが大事。考え方の違い共有のプロセスを楽しむ。
- ◆ 目的や想いの共有は難しいが、まずは様々な人と雑談（おしゃべり）することが大切だと思った。
- ◆ 協働の第一歩として議論をしっかりと目的などを共有することなどが大事であると感じた。

<その他>

- ◆ 自覚的な市民がカギ。第三セクターの捉え方。
- ◆ 支援が必要な人と思っていたら、実は地域の協働のピースの1つだった！飛び込んでみて広げてみることの大切さ。自分ごと！
- ◆ 日々の業務をこなすだけでなく、行政だからできることの池に投げ入れる石にならなくてはと思いました。想いがあるなら、発信し行動しなければいけないと思いました。

Q3 これから協働を進める上で、あなたが大切にしたいことをお聞かせください。

(16名からの意見)

<相手を理解する、違いを知る>

- ◆ 相互理解（お互いを知る）。目的を共有する。
- ◆ 相手との対話（雑談も、打合せも）、腹を割って話せる関係性。協働相手との思い、目的の共有。WSに入る！
- ◆ 相手の想いを理解するように努める。（＝同じ景色を見る視点を大切にする）
- ◆ 関係性づくり。思い、目的の共有。立場を理解、お互いを知る。
- ◆ しゃべること。違いを知ろうとすること。
- ◆ 持ち帰りを多くしていくこと。意志や思い、違いに気づき、それぞれが、それぞれの立場で、得意なことをやっていけるよう進めていきたい。

<仲間を増やす>

- ◆ 相手の立場や文化などを理解し、お互いを知ること。自分だけでなく、多くの人を巻き込み話していくことを大切にしたい。
- ◆ お互いが協働して良かったと思えるよう努力する。楽しむ。継続できるよう仲間を増やしていく。

<業務に向かう姿勢>

- ◆ 地域コミュニティの仕事をしており、市民や住民の協力なくして事業は進められないため、今後も十分に説明をしながら事業を進めていくこと。
- ◆ 話し合うこと。このような場をたくさんつくる。今ある場（会議）をこんな雰囲気のある場にする。話し合いやすい環境づくり。
- ◆ 行政として参加する際にも、ちゃんと「自分ごと」として捉え、「想い」を持って臨みたい、関わりたいと思いました。
- ◆ 恕の心。
- ◆ 対等なパートナーになる。
- ◆ 小さな成功を積み重ねる。
- ◆ 学んだことを忘れず意識すること。
- ◆ 動き出すこと。時間を作るようがんばります。

Q4 その他、これから協働を進める上での悩みや、進め方の提案等があればお聞かせください。

(9名からの意見)

<事例の紹介・見える化>

- ◆ 先進事例など様々な事例があれば紹介いただきたいと思います。
- ◆ 協働による成功事例を増やして共有（見える化）していきたい。協働がスタンダードという環境づくりを。

<協働事業の進め方>

- ◆ 仕事の負担の軽減（働き方改革）に協働を生かす。生きがいづくり、全ての人に協働の場を。
- ◆ 行政業務で協働できないものを洗い出した方が早いかも。
- ◆ コーディネーターの活用、任用。
- ◆ 協働の相手との話し合いに対等な立場で行政が参加できるような環境を作ることができればいいが。
- ◆ 「協働」とは何かをまずは職員1人1人が知るべき。意識すべき。協働推進事業だけが、市民協働課だけが、協働するところ、みたいな考え方がまだまだあると思うので。

<悩み>

- ◆ 思いのつなげ方が難しい。

<研修会の進め方>

- ◆ その会を開くにあたり、会の前に想いを話してほしいと思いました。

2月14日小中学校と市民活動団体との協働・連携マッチング会

参加団体一覧

	団体名	活動内容等
①	パソコンお助けサークル	パソコンの基本操作 小学生向けの「Scratch」を使用したプログラミング体験
②	グループひまわり	民謡・吟詠 楽器演奏 朗読 紙芝居
③	ボーイスカウト東海3団	青少年育成に寄与する活動 野外活動・防災に関すること
④	知多友の会 東海支部	衣・食・住・家庭経済の学びを通して、子ども・家庭に働きかける 食の大切さ・お金について考える
⑤	一般社団法人子どもねっこ育社	HSC(人一倍敏感な子)啓蒙活動、不登校サポート等
⑥	アレルギー支援の会・にここ	食物アレルギーに関する相談や情報共有 アレルギーの対応が得意です
⑦	明るい社会づくり運動知多地区推進協議会東海地域	駅前清掃、介護施設まつりボランティア協力
⑧	自閉スペクトラム症啓発グループSmile	障がい特性や具体的な支援方法について体験参加型の公演&支援ツールの展示
⑨	東海川柳会	俳句の指導の他、川柳の歴史も学べる
⑩	東海市の戦争を記録する会	戦争体験者の聞き取りを記録し、冊子を発行 語り聞かせ ※⑪と協働
⑪	木曜座(戦争を語り継ぐ会)	戦争の悲惨さを体験文や資料で朗読 ※⑩と協働
⑫	エシカルツリーTOKAI	食育(有機農法など)
⑬	アミーゴスプラザ	運動促進のストレッチ等の実施(市民の健康増進)
⑭	ボランティアサポート	子ども教室「リサイクルで遊ぼう」の開催 身近な材料(リサイクル品)を利用し作品を作成する
⑮	東海市国際交流協会	日本語教室、外国の人たちや姉妹都市との交流
⑯	わくすくブリッジ	乳幼児親子と中高大生の交流会(学校訪問含む)、育児と仕事の両立、子育てサロン

市民活動センターの機能充実について

1 アウトリーチについて

- (1) 団体・地域ニーズの把握方法
- (2) 対象地域をどのように設定するか
- (3) 成果の見える化をどのように考えるのか

2 市民活動センターについて

- (1) 開館時間
- (2) 休館日
- (3) 貸館時の時間区分（時間帯、1 時間）
- (4) 管理運営方法（市直営、指定管理者制度）
- (5) 印刷室の機材・備品
- (6) 講座・イベント（開催曜日・開催時間）
- (7) 気軽に立ち寄ってもらうためのアイデア
- (8) 多様な担い手の集いの場を創出するための工夫

3 その他

近隣市等の市民活動センター一覧表（案）

No	自治体名	東海市	知多市	大府市	小牧市	犬山市	岩倉市
1	名称	東海市立市民活動センター	知多市市民活動センター	大府市市民活動センター「コラビア」	ワクティブこまき こまき市民交流テラス	犬山市協働プラザ「わんまるーむ」	岩倉市市民活動センター（岩倉市民プラザ）
2	設立年	2006年4月	2007年1月	2009年4月	2020年9月	2020年4月	—
3	設置目的	市民活動の健全な発展・活性化をめざして設置。情報・交流コーナー、印刷・作業室や会議室などを備え、市内で市民活動、ボランティア活動、NPO活動を行っている方々、興味関心のある方の交流・情報交換・資料作成等ができる施設。	市民活動の総合的な推進拠点として開設。まちづくりに関わるさまざまな団体や機関がこのセンターに集まることで、お互いに連携・協力し合い、市民が市民を育てるまちづくりの総合拠点を目指す。	市民活動の健全な発展を図ることを目的に建てられた施設。市民活動・ボランティア活動をしている人、してみたいと思っている人を応援する施設。	市民活動に加えボランティア活動、地域活動、生涯学習活動等の情報提供やそれぞれの活動をつなぐ多機能型施設。	「活躍する多様な市民が地域社会を担う犬山市」を創造することを目的として、市民活動や地域活動などの公益的活動の支援・促進及び多様な主体の協働を推進する事業を実施。分野を超えた人との出会い、さまざまな形で社会とつながるきっかけや、地域の資源が見つかる場所として、個人利用からグループの打合せまで、幅広い利用が可能。	市民活動やボランティア活動、地域の自治活動といった公益的な活動に対して幅広く支援するための拠点として設置。パソコンや印刷機、大判プリンターなどを備えた作業室や、ミーティングや活動の練習等にご利用いただける会議室も整備。市民活動支援センターの登録団体となることで、これらの設備の優先予約や減免料金での利用が可能。
4	委託形態	市直営（運営は委託）	市直営（運営は3団体に委託）	指定管理	指定管理	市直営（運営は委託）	市直営（運営は委託）
5	管理運営者	特定非営利活動法人 まち・ネット・みんなの広場	特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた等	認定特定非営利活動法人 愛知ネット	特定非営利活動法人 こまき市民活動ネットワーク	いぬやま協働まちづくりコンソーシアム ジョインいぬやま	ローカル・ワイド・ウェブいわくら
6	開館時間	午前9時～午後9時	午前8時30分～午後9時30分 ※室によって時間は異なる	午前9時～午後9時	午前10時～午後9時（月～土） 午前10時～午後5時30分（日）	午前9時～午後9時30分 午前9時～午後7時（金）	午前9時～午後9時30分
7	休館日	毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）	土・日曜日を除く祝日、年末年始（12月29日～1月3日）	月曜、8月13日～8月15日まで、年末年始（12月28日～翌年1月4日）	毎月第3火曜日及びその前日（ただしその日が休日の場合は開館、水曜日が休館）、年末年始（12月28日～1月4日）	日曜日、年末年始（12月28日～1月3日）	年末年始（12月29日～1月3日）
8	主な業務	①施設の貸室・利用等 会議室、情報交流コーナー、印刷作業室、ロッカー、図書コーナー、掲示スペース等 ②相談業務・支援等 法人の立ち上げ、マッチング、助成金の獲得や多様な主体との連携について ③情報提供 チラシコーナー、会報誌、メールマガジン、HPでの登録団体情報の発信等、団体紹介ムービー ④イベント・講座開催 みんなの広場（年5回）、プラザまつり等	①施設の貸室・利用等 交流室、市民活動室（印刷作業・図書閲覧・ミーティング・メールボックス等）、会議室、ロッカー、掲示スペース、団体活動室）等 ②相談業務・支援等 市民活動に関する相談窓口の設置、補助金・助成金情報の紹介 ③情報提供 会報誌、HPでの登録団体情報の発信等 ④イベント・講座開催 ⑤その他 手作りカフェ（アーダ・コーダ）（サポートちた）	①施設の貸室・利用等 交流スペース、情報コーナー、印刷室、メールボックス、ロッカー、会議室、団体活動室（インキュベートオフィス）、料理室（ワンディシェフ専用）等 ②相談業務・支援等 相談、マッチング、NPO設立、ボランティア紹介等 ③情報提供 市民活動支援サイト、会報誌、メールマガジン、館内掲示、チラシ、HPでの登録団体情報の発信 ④イベント・講座開催 「こらび庵」（ワンディシェフ）、コラビアまつり（年1回）、エンジョイ！コラビア（年1回）、コラビア交流会（年1回）、車座集会（年5回以上）、スキルアップ講座（年5回以上）	①施設の貸室・利用等 多目的室、印刷機、プリンター、作業室、フリースペース等 ②相談業務・支援等 助成金、協働提案事業受付、助言、マッチング、地域の人材を掘り起こす事業 ③情報提供 HPでの登録団体情報の発信 ④イベント・講座開催 講座、研修、交流会の開催	①施設の貸室・利用等 交流スペース、ワーキングルーム、キッズスペース、印刷機、ロッカー等 ②相談業務・支援等 つながりよろず相談会（月2回）、専門相談（随時）（団体活動・事業の運営・広報・ITサポート・ソーシャルビジネス・地域の課題）、地域資源バンク・いぬやまでばん（マッチングサイト）、地域活動の担い手育成事業等 ③情報提供 広報誌、展示スペース ④イベント・講座開催 フューチャーセッション@犬山（なにかやってみたい人が自由に語り合う場）、いぬやまみらいテーブル（協働プラザ内にある交流スペースの一部のテーブルを活用して、「話したいテーマ」や「気になる話題」で、お話会や体験ワークショップなど）	①施設の貸室・利用等 作業室、印刷機、集い室、会議室、多目的ホール等 ②相談業務・支援等 ボランティア募集、 ③情報提供 HPでの登録団体・助成金・講座・イベント情報の発信、団体情報ファイルの設置、団体・イベント紹介ムービー等 ④イベント・講座開催 市民活動支援講座

令和６年度（２０２４年度）第２回、第３回

東海市協働推進体制づくり検討委員会 会議録 抜粋

【第２回（令和６年（２０２４年）１１月２６日（火）開催）】

(2)報告

「協働推進体制づくりの検討に係る団体アンケート調査結果について」より
抜粋

（三島委員）

市民活動センターに対する団体の主なニーズは相談業務であると予想される。地域の方にとって、市民活動センターに直接相談に来るのは敷居が高いと思われるので、アウトリーチ業務として市民活動センター職員が地域へ出向いて話を聞くようにすれば、地域課題を把握し、団体と繋ぐことができるため、どこかの機会でアウトリーチ業務に対する団体のニーズを把握できると思う。

意見交換

(5)意見交換

「市民活動センターの機能充実について」より抜粋

（千頭委員長）

先程ラウンジスペースの話題があったが、コーヒーの販売等、用事がなくても市民活動センターに立ち寄りたくなるような仕掛けがあると、新しい出会いの場としての機能ができるかもしれない。

（三島委員）

知多市の市民活動センターでは、A d a - c o d a という手づくりカフェで、日替わりで色々なグループがランチを出している。東海市でも、ランチとまではいかなくとも、コーヒーを飲みながら自分達の団体の紹介をするというのもいいと思う。

（千頭委員長）

知多市はワンデーシェフを実施しているということで、東海市でクッキー等を作っている団体があれば、例えばワンデースイーツとして、クッキー等と一緒にコーヒーの販売をするという形態も考えられるし、大学生が関わるのもいいと思う。相談があるときだけ行こうと思うと敷居が高く感じられるので、何かに惹かれて日頃から通うように意識付けをしていくことは大切である。

【第3回（令和7年（2025年）1月28日（火）開催）】

(3) 意見交換

ア「市民活動センターの機能充実について」より抜粋

（加藤委員）

もう一つ、条例に基づいて色々なことが決まっており、そういった縛りがあるということを市民活動センターはとても重く受け止めている部分があり。

先程、協働事業とお金についての話があったが、施設運営を委託されている私達は行政からいただいた委託金について、1円たりとも無駄に使わないように非常に気を遣っている。そういう私達が考える改善案の一つとしては、年末、正月明け、お盆等のほとんど誰も来館しない日を休館日として見直すということである。その際には市民活動センターが複合施設で、隣に子育て総合支援センターがあるため、合わせて行動しなければならないという面も配慮する必要がある。

市民活動団体の状況に応じた各種支援の充実について
【他市の事例】

別紙 5

項目	愛知県 I 市	項目	愛知県 H 市
概要・目	地域が抱える諸課題の解決を図り、又は市民の福祉向上及びまちづくりに貢献する等の市民活動団体等が主体的に取り組むモデル的な事業について財政支援を行い、団体活動の活性化や市民活動等の拡充を図り、かつ、マルチパートナーシップを促進するための市民活動助成金制度	概要・目	市内などで活動する N P O や自治区などの市民活動団体が行う事業を資金面で支援し、グループの自発的・自立的活動の促進を目指す制度
①立ち上がり支援	【①申請団体】 ☑3人以上で構成される団体であって、その構成員の半数以上が、市内に在住、在勤または在学していること 【②対象事業】 ☑団体の活動の基盤づくりに必要な経費 【③助成金の種類と内容】 ☑設立して1年以内の団体の基盤づくりに必要な経費等を支援（補助率50%以内・上限額2万円）	①はじめの一步部門	活動開始初期の団体を支援 【①申請団体】 ☑2人以上で構成される N P O ・ボランティア団体・自治区などの市民活動団体であって、非営利・公益的・自発的活動を行い、規約などがあり継続的な市民活動を行う、またはこれから行う予定があること（※全制度共通） 【②対象事業】 ☑新たに設立しようとする団体や設立から3年以内の団体について、事業や運営の経費 【③助成金の種類と内容】 ☑補助率50%以内・上限額10万円 ☑助成は1団体あたり1回限り
②はじめの一步	【①申請団体】 ☑市民活動支援センター登録団体 【②対象事業】 ☑設立して3年以内の団体が年間を通して計画的に実施する事業 【③助成金の種類と内容】 ☑設立して3年以内の団体が行う、3年度以上継続した活動を予定する公益性を有する事業に助成（補助率90%以内・上限額5万円） ☑市内で活動する他の団体と協働して行う場合は10%加算	②ステップアップ部門	成長段階の団体の事業を支援 【①申請団体】 ☑※ ☑設立1年以上の団体 【②対象事業】 ☑設立して1年以上の団体が市民活動団体が自ら企画実施する事業に係る経費 【③助成金の種類と内容】 ☑補助率50%以内・上限額100万円 ☑同一年度内に1事業（同一事業を継続する場合は原則3回まで）
③市民提案・公益的事業	【①申請団体】 ☑市民活動支援センター登録団体または、市内に拠点のある法人格を持つ事業者 【②対象事業】 ☑対象団体が解決を目指す地域の公共的課題について、自らテーマを設定し提案する事業 【③助成金の種類と内容】 ☑団体が解決を目指す地域の公共的課題について、自らテーマを設定し提案する公益性を有する事業に助成（補助率50%以内・上限額10万円） ☑市内で活動する他の団体と協働して行う場合は10%加算	③コラボレーション部門	地域の連携・協働を深める事業を支援 【①申請団体】 ☑※ ☑設立1年以上の団体 【②対象事業】 ☑設立して1年以上の団体が他団体と協働する事業に係る経費 【③助成金の種類と内容】 ☑補助率75%以内・上限額100万円 ☑小学校区単位の自治区が集まり実施する事業については、1年目に限り助成率をアップ ☑同一年度内に1事業（同一事業を継続する場合は原則3回まで）
④行政提案・協働事業	【①申請団体】 ☑市民活動支援センター登録団体または、市内に拠点のある法人格を持つ事業者 【②対象事業】 ☑市が解決を目指す行政課題に対する提案事業 【③助成金の種類と内容】 ☑市が解決を目指す行政課題について、行政から提案のあったテーマに基づき、団体が自らの特性を生かして提案する行政と協働で取り組む事業に助成（補助率100%以内・上限額30万円）	④チャレンジ部門	市の施策推進に貢献するプロジェクトを積極的に支援 【①申請団体】 ☑※ ☑設立1年以上の団体 【②対象事業】 ☑設立して1年以上の団体が市と協働して、総合計画に掲げられた施策推進のために企画実施する事業に係る経費 【③助成金の種類と内容】 ☑補助率75%以内・上限額100万円 ☑総合計画に掲げられた「育ちの支援」「学びの支援」を事業目的に明記された事業について、90%以内を助成額とする。 ☑同一年度内に1事業（同一事業を継続する場合は原則3回まで）

【検討の視点】

- ①市民活動団体の設立及び設立直後の支援として適切か
- ②市民活動団体等と市が対等な関係で取組むうえで適切か
- ③取組を進めるうえで段階に応じた支援となっているか

団体間のマッチング・コーディネート機能の充実について

1 Webを活用したマッチング

(1) 【事例】愛知県

「あいプラット」(令和7年4月から運用開始)

<概要>

あいちNPO交流プラザの取組みで、協働を目指すNPO・企業・大学等、多様な団体のデータベースの検索、マッチング、チャット機能でのやりとり及びイベント参加者やボランティアの募集ができるWeb上のプラットフォーム。

登録団体の検索、イベント、協働プロジェクト等のエントリーができ、プロジェクト内でのグループチャットでのやりとりができる。

(2) 【事例】犬山市

「犬山市地域資源バンク・いぬやまでばん」

<概要>

協働プラザ「わんまる一む」の取組みで、まちづくりに対する志を多様な分野から集め、広い範囲の人材を社会参画につなげる情報整備及び地域資源の活用を目的として運用されており、市内の資源(人、もの、場所など)を共同で利用できるように登録し、有効活用する仕組み。

民間事業者、アーティストなどの本業で社会貢献を望む人、また普段使っていない事務や芸術、言語などの資格や特技を地域貢献として生かしたい人など、さまざまな分野の「人材」や、店舗の空きスペースや貸出可能な資機材などの「ものや場所」も、地域でのイベントや文化的な活動を実施する際に活用し、空いた時間や物を社会貢献に活用できる資源と考えている。

「こんな特技のある方がいる」「空きスペースをまちのために活用してほしい」といった地域資源をご存じの方から情報をもらい、事務局員がヒアリングに行き、地域資源の情報票を作成し、公表内容の同意をもって登録完了。

犬山市地域資源バンクWebサイトにて情報発信を行っており、地域資源の検索ができる。(窓口での相談も受け付けている)

「いぬやまでばん」というサイトで案件の出品・提供、相談・申込ができる。

<参考URL>

「犬山市地域資源バンク」

<https://www.city.inuyama.aichi.jp/kurashi/community/1009832/1006008.html>

「いぬやまでばん」

<https://inuyama-deban.net>

<懸念>

- ①Webを運営するための管理者側の労力
- ②継続的な運用の中で仕組みとして形骸化する恐れ

2 対面によるマッチング

(1) 【事例】東海市

「市内小中学校と市民活動団体の協働・連携マッチング会」

<概要>

市内小中学校のニーズ・お困りごとと市民活動団体のノウハウ・人材の情報共有を図り、マッチング会を通じて“顔の見える日常的な協働・連携”を創出する。市内小中学校の教頭先生と市民活動センター登録団体を対象に実施。

市民活動団体は事前に「協働・連携マッチング会申込表」を作成し、各ブースに活動紹介チラシ等を配架各ブースにて教頭先生と対話する。

教頭先生は活動概要シートを確認し、興味がある市民活動団体のブースへ赴き対話し、後日、校内で関連情報を共有し、必要に応じて“協働・連携”をする。

<懸念>

- ・定期的な取組みにすることで、はじめて継続的に学校等と市民活動団体のマッチングの支援ができる。

3 その他の方法によるマッチング等